

評価結果概要表

【事業所概要（事業所記入）】	
事業所番号	3870400417
法人名	医療法人 青峰会
事業所名	アクティブライフ松柏
所在地	愛媛県八幡浜市松柏甲728-1
自己評価作成日	平成21年11月12日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要（評価機関記入）】	
評価機関名	特定非営利活動法人JMACS
所在地	愛媛県松山市千舟町6丁目1番地3 チフネビル501
訪問調査日	平成21年12月8日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】	
スタッフは運営理念である「ゆっくり、楽しく、いつも一緒に」を常に心掛け、利用者に寄り添いながら支援しています。外出や日々のレクリエーション、ティータイムと、利用者と一緒に過ごす時間を大切にしています。 医療との連携もスムーズで安心して生活することができます。 中学校や近隣の方々との交流も多く地域に根ざしたホーム作りに取り組んでいます。	

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】	
●回覧板で事業所主催の「夕涼み会」の案内を回されたり、中学校の運動会には、事業所の利用者のために、ひとつテントを用意してくださっている。お隣の中学校から生徒が福祉体験にユニットに3名ずつ来られ、車椅子の体験をされたり、一緒にお好み焼きを焼いて利用者とともに食事をされた。又、リコーダーを披露してくれたり、一緒に歌を歌ったり、レクリエーションを楽しまれた。中学生と顔見知りになり、普段でも手を振ったり声を掛け合っておられる。 ●地域の方に紹介いただいた地方紙を購読するようになり、地元の馴染みで身近なニュースや最新情報を利用者が知ることができるようになった。	

V. サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる （参考項目：23,24,25）	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています （参考項目：9,10,19）	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある （参考項目：18,38）	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている （参考項目：2,20）		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある			○	3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている （参考項目：38）	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている （参考項目：4）	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている （参考項目：36,37）	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、生き活きと働けている （参考項目：11,12）	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている （参考項目：49）		1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている （参考項目：30,31）	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている （参考項目：28）	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

I.理念に基づく運営

II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援

III.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

[記入方法]

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 アクティブライフ松柏

(ユニット名) すだち

記入者(管理者)

氏 名 岡田奈美

評価完了日

平成21年11月12日

自己評価及び外部評価表

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業 所理念をつくり、管理者と職員は、その理 念を共有して実践につなげている	(自己評価)	
			理念が目につくような玄関、事務所、食堂、廊下等に 掲げ、職員一同が実践に繋げるよう努力している。	
			(外部評価)	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続け られるよう、事業所自体が地域の一員とし て日常的に交流している	(自己評価)	
			年1回、夕涼み会を開催。地域の人達との交流を持っ たり又、学校行事(運動会)公民館(七草がゆ)の催 しに参加している。 近隣者との挨拶も心掛けている。	
			(外部評価)	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認 知症の人の理解や支援の方法を、地域の 人々に向けて活かしている	(自己評価)	
			中学生、生徒の福祉体験の受入れや近隣者の施設見学 開放に力を入れている。 認知症の人の理解及び、支援に向けて地域の方々に対 し、活かしていると思う。	
			(外部評価)	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 2ヶ月に1回、家族、公民館長、市高齢者担当、婦人会他、参加され、ホームでの活動状況、意見交換、情報交換等を行い、サービス向上に活かしている。今年度からスタッフ1名増やし書記として参加している。	
			(外部評価) 会議時には、地域の方や地区の他グループホームの方にも参加いただき「介護計画書について」「外部評価について」「避難訓練」「感染症対策」等、事業所の取り組みについて報告して質問や要望、助言をいただいている。地域の方に紹介いただいた地方紙を購読するようになり、地元の馴染みで身近なニュースや最新情報を利用者が知ることができるようになった。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	(自己評価) グループホーム連絡協議会研修又、市開催の研修等に参加、協力関係を築くよう取り組んでいる。年数回、さわやか相談員さんが来所、意見、アドバイスを貰いサービス向上に取り組んでいる。	
			(外部評価) 市の担当者とは、相談や質問等、電子メールでやり取りをされており、運営推進会議の報告書や便り等を直接、市の窓口に届けておられる。介護相談員の方からは、手洗いや義歯の扱い方等についてご意見をいただき、早速、歯科衛生士に問い合わせ、使い方を見直された。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 身体拘束について研修に参加し理解している。どうしても必要な場合は家族と相談し、許可を得ている。玄関もいつでも出入り出来るよう開けており、外出時にはスタッフと一緒に出て安全を心掛けている。ドアが開くとチャイムが鳴るように設定している。	
			(外部評価) 身体拘束について職員は法人研修等で勉強されている。現在、ユニットによって、ベッドの上がり降り時に転倒の危険があり、ベッド柵をされている。これまで鈴を付けたり、物音等にも気を付けられたようだが、ご家族との相談の上で柵を付けられた。	さらに、ご本人の安全も守りながら、ご本人の意思等も大切に支援できるよう検討を重ねていかれてほしい。「ベッド柵をしなくてもすむような対策」について、考え続けていかれてほしい。

自己評価及び外部評価表

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 高齢者虐待防止法等について研修会等で学ぶ機会がある。 虐待になる事柄をよく理解し注意を払っている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) ほとんどのスタッフが学んでおらず、研修の機会があれば、参加したいとの要望がある。 研修会に、どのような制度かは勉強しているが、現時点では利用者はいないが、必要であれば活用したい。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 管理者、又は、ユニットリーダーが書類、説明に沿って、家族が理解出来るよう、ゆっくり説明し、質問にも回答している。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 運営推進会議や、3カ月に1度、ケアプランを作成し、送付しているが、家族の要望や意見を記入して貰っている。 その意見を全スタッフに伝え、運営に反映させている。 リビング、玄関前に、意見箱を設置しており、意見がある時には、すぐ話し合う機会を作り、対応している。 (外部評価) ご家族へは、ホーム便りに写真を多く採り入れ、行事等の報告をされたり、職員の紹介をされている。又、電話での報告や行事に案内をされている。敬老会に、ご家族が大正琴を披露してくださったり、ご本人が図書館を利用される際には、迎えに行っていたり、時に、協力をしてもらうこともある。	

自己評価及び外部評価表

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価)	
			スタッフ会議の時、意見や提案を話す事が出来る。	
			(外部評価)	
			管理者は、年に2回、法人と話す機会があり「困っていること」等を相談されている。又、職員は、4・10月に個別に目標を設定することになっており、それらに基づき、管理者が職員と面談して日々の意見等を聞いておられる。行事担当者を中心に他職員と相談して、敬老会では職員が「金色夜叉」の劇をされた。又、職員会時には業務やケアについて意見交換をされている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価)	
			年に2回、能力開発カードで目標を持ったり、意見等で把握している。 資格を取れば良い条件になっている。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価)	
			附帯施設の勉強会、GH研修会に参加し、スタッフ会で発表し、より良いケアを行えるようにしている。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価)	
			責任者が他の施設運営推進会議に参加したり、研修生を受け入れたりしている。	
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価)	
			母体からの入所者の為、入所前に管理者、又は、ユニットリーダーが本人とゆっくり話し、聞く機会を持っている。 事前に見学して頂き、スタッフともコミュニケーションを取るようになっている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 家族の困っている事や要望等を聞き、個々に合ったより良い関係作りが出来るよう、スタッフ間で、話し合っている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 本人の思いに向き合い、希望や状況等を確認し、改善に向けた提案を行っている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 本人に合った対応、気配りをし、安心して暮して頂けるよう心掛け、お互いに助け合いながら、生活が出来る関係を築いている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 来所された時に本人の状況を話し、日々の暮らしの中でのニーズがあれば良い方向に繋げる様、話し合っている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) ホームに馴染みの友達が来られた場合、温かく迎え入れ、関係継続、出来るよう支援したり、以前利用されていた理容室、図書館等へも継続出来るよう支援している。 (外部評価) お友達が遊びに来てくれ、居室でおしゃべりされたり、行事で外出した際に、学生時代に通っていた学校の近くを通ってみることもある。ご親族の結婚式に出席された利用者もある。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 一人ひとりの生活歴や性格を把握したり、作業やレク活動、食後の会話が出来るようにゆっくりと時間を取ったり、他者同士でも話題が尽きぬよう働きかけているも、個人の性格上、一つになるのは難しい所がある。 相談しながら、努力中である。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) サービス終了後は、他の事務所へ面会に行ったり、ホーム外で会った時等は、挨拶や会話など出来ているが、それ以外のフォローは出来ていない。	
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 日々関わっていく中で、ゆっくり話し合える機会を持ち、思いや希望等を把握するように努めている。 困難な場合は、ご家族からの意見や言葉、表情、態度から掴み取り把握している。	
			(外部評価) 法人の病院からの入居が多く、病院からのサマリーでこれまでの情報を知り得ておられる。	職員は、利用者個々とゆっくりお話する時間を作り、ご本人の思いを探っていきたいと考えておられる。食べたいものや行きたいところ、終末期のあり方等、ご本人から暮らしについての希望や思いを表してもらえようような職員の働きかけ等、かかわり方の工夫が期待される。又、職員で情報共有していかれてほしい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 入居情報やサマリーから情報を得たり、入居時のアセスメント等、聞き取りをしている。 又、本人との会話の中やご家族から把握している。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 個々に合った生活のリズムを理解すると共に、行動やしぐさから把握している。 生活、心理面での気配りに心掛けたり、得意な事や、残存能力を引き出せるよう努力している。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価)	
			ご本人やご家族からの要望を聞いたり、スタッフ会でアセスメントを元に意見交換を行い、利用者にとって、より良いケアになるよう計画を作成している。	
			(外部評価)	
			介護計画作成前に、ご家族にご本人の状態を報告してケアへの要望を聞き取っておられる。そのご意見を踏まえ、職員は、ご本人の状態をアセスメントして職員で話し合い、介護計画を立てておられる。3か月ごとに見直しをされている。	ご本人の思いや意向、ご家族の要望等も引き出して計画に採り入れられるよう、取り組みをすすめていかれてはどうだろうか。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価)	
			個別に利用者の状態の変化を記録し、気づきや工夫について、申し送り時やスタッフ等で情報を共有し、ケアの改善に活かしている。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価)	
			ご本人の希望により、通院介助や理容室に送迎している。 柔軟に対応、支援するようにしている。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価)	
			地域との関わりを持つようにし、民生委員、ボランティア、消防、中学校の協力を得ながら支援している。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価)	
			月2回主治医が定期的に往診している。異常がある時には、電話で対応や往診して貰っている。 ナースによる訪問看護を受けている。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(外部評価)	
			母体病院から入居に至る場合が多く、引き続き、協力 医でもある主治医が往診で診てくれるようになっている。 入居時のかかりつけ医に引き続き受診できると説明 されているが、「定期的に往診してもらえる協力医 が安心」とかかりつけ医を変更される方が多いよう である。協力医は、24時間いつでも相談、対応してく れるようになっている。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できる ように、また、できるだけ早期に退院でき るように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価)	
			利用者の体調変化、気付き等ある時には、母体から ナースと連絡が取れているため、いつでも相談が可 能。 その都度適切な指示を貰っている。 必要時には、主治医に連絡している。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価)	
			母体が病院である為、情報交換や相談がしやすい医療 連携、看護師等に何でも相談出来る体制になっ ている。	
33	12		(外部評価)	
			重度化した場合は母体の病院に入院となる。 又、終末期については、家族等と話し合いは行われて、 おらず、今後話しをする時期が来ると思う。	
33	12		(自己評価)	
			入居時には、看とりの指針に沿って事業所の支援につ いて説明をされている。「食事量が減った」等、利用 者の状態変化時には、医師がご家族に状態等を説明し てくださり、今後のことについて話し合っておられ る。	

自己評価及び外部評価表

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 消防署から、応急手当の処置等の講習を受けている。 又、グループホーム連絡協議会の研修、勉強会に参加している。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 年に2回、消防署の協力にて、避難訓練を実施して貰っている。 又、地域の防災訓練にも参加している。 (外部評価) 近隣の家から出火したことを想定して、避難訓練を実施された。階段に蛍光テープを貼って火災時でも目印になるようにされている。運営推進会議で地域の方達に協力をお願いされており、管理者は、「この施設に高齢者がいることを知っていただくことが第一歩」と考えられていた。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 利用者の方の尊重した声掛け、言葉遣いに気をつけ、訪室時には、必ずノックと声掛けをする対応をしている。 個人情報やプライバシーに関することは守っている。 (外部評価) 管理者は、職員に利用者の呼び方や言葉使い等に気を付けるように指導されている。外部からの情報等もきっかけにして取り上げ、全職員に気を付けようと伝えておられる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 利用者の方一人ひとり話せる時間をはかるとともに、一人ひとりに合った言葉掛けをしたり悩みや希望時には受け止める姿勢。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 個々に合った事をして頂き、一人一人のペースを大切にしている。外出する際も希望に沿える様支援している。しかし、毎日の作業が同じでマンネリ化している様に思える。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 馴染みの理容室へ行く方や、2ヶ月に一度は美容師さんに来て頂き、散髪してもらっている。また、毛染めをされている方は、スタッフが支援している。着替えの際は、本人と服を選び着てもらっている。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 利用者様に食べたい物を聞いたり、季節の食材を取り入れている。また、利用者さんに料理の下ごしらえや後片付けを手伝ってもらっている。 (外部評価) 法人内の献立案をもとにして事業所で食事作りをされており、食事の下ごしらえや配膳、片付け等、利用者個々ができることを行っている様子が見られた。食後、座席でゆっくり過ごせるような時間を設けておられる。調査訪問時、誕生日の利用者がおられ、お寿司・刺身・ビール・手作りケーキでお祝いをされていた。時にはベランダで食事をされたり、外食に出かけられることもある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 食事摂取量は毎食後記録している。定期的に水分補給できている。水分をとらない方も声掛けしている。また、いつでも水分補給できるように各居室に、ペットボトル等にお茶や湯冷ましを入れ、置いている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 毎食後、口腔ケアしている。声掛けがおろそかになる事があり、できていない日もある。義歯の方は、就寝前に消毒している。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 時間を決めてトイレ誘導をしたり、本人から訴えがある際は、トイレ誘導している。 自立されている方でも、尿失禁が目立っているので良い方法を考えていると思う。	
			(外部評価) 排泄チェック表に時間等を記録し、できるだけトイレで排泄されるよう誘導されている。間に合わないこともあるので尿取りパッドを使用されたり、夜間はポータブルトイレや尿器等も使用しておむつをできるだけ使用しないように取り組まれている。尿失禁のある方も、ご本人が布パンツを希望されている方は、ご自分で交換することができるよう、そつと下着等を準備されている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 水分補給の声掛けはあっても、食事の工夫は余りできてなく、ラキや浣腸等、薬に頼っている事が多いと思う。 腹部マッサージや体操等は心掛けできていると思う。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 個人に合った時間帯に入浴支援しているも、一部の方にはできていない。自立されている方は一人で毎日入浴されている。 入浴時間が変更になる場合も、説明し了承を頂いている。	
			(外部評価) 午前中は、活動を中心に、午後から入浴するようになっている。毎日入浴される方や、夕方に一人で入られる方もある。亀ヶ池温泉の足湯を楽しまれたこともある。入浴後に髪をとかし、ツバキ油をつけることが習慣のある方もいた。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 夜間、睡眠がとれる様、日中は離床時間を長くし、その際作業やレクを行っている。 また、声掛けにて数時間昼寝をしてもらったり、各自室にて休んでもらっている。	

自己評価及び外部評価表

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 処方箋は各自の介護記録にファイルしているので、スタッフ全員が把握する事が出来ている。 内服時は、必ず名前を確認し、手渡しで行っている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 一人ひとりの利用者に合った作業、役割を持って頂いている。気候の良い際には、月に一度全員で外出したり、季節に合った行事を行っている。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 全員の方の希望に沿った外出は出来ていないが、出来るだけ支援に努めたい。 買物、図書館、ドライブ等出掛けている。 (外部評価) 国道までの道や中学校周辺、神社まで等、その日、そのメンバーによってコースを決めて散歩に出かけておられる。天気の良い日は、玄関前で日向ぼっこやボールを使った運動をされている。月に1回の外出では、伊方町のきらら館や西予市のどんぶり館、又、内子等にも出かけておられる。又、八幡浜市の八日市に行くと知人に会い「元気やったかな」と声を掛けてもらったこともある。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 外出時、数人の方はお金を持たれ、好きな物を購入されている。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 利用者の希望時、自由に電話を掛けられるようになっている。また、手紙等ポストが近隣にない為、職員が預かり投函している。	

自己評価及び外部評価表

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 季節に合った貼り絵や塗り絵をして頂き、季節感のある作品等を展示している。 共用の空間については、温度調節が出来たり、光については、カーテンやブラインドの使用また、トイレには消臭剤等も置いている。	
			(外部評価) 職員が山から切って来られたもみの木やつるには、クリスマスの飾り付けがされており、居室の入り口にも手作りのリースを掛けておられた。玄関を入った正面には神棚があり、お正月には、手を合わせて皆で干し柿をいただくことになっている。水仙の花やさざんかも生けてあった。居間には、折り紙の作品や利用者が描いた水彩画が飾られていたり、ベランダには、利用者個々の鉢に、球根が植えられていた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) リビングには、ソファ等、食堂や廊下の端には椅子を置き、いつでも利用出来る。利用者同士が、くつろげるような場所を工夫している。	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 椅子やテレビ、飾り物、小物類等、自宅から持参され、個々の趣味に合った部屋作りをしている。	
			(外部評価) 居室には、ご家族の写真やご自分が塗った塗り絵の作品、額に入った百歳のお祝いの賞状が飾られていた。編物をされたり、居間で折っていた折り紙の続きをお部屋でされる方もある。お好きなテレビを見たり、陽の当たるところで日向ぼっこをされている方もあった。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 利用者の状態に合わせて、施設内は手すりがあり、安全かつ、一人ひとりの力を活かす環境作りがされている。	